

妊娠期・乳幼児期における歯科保健の現状について

胎児期及び妊娠期

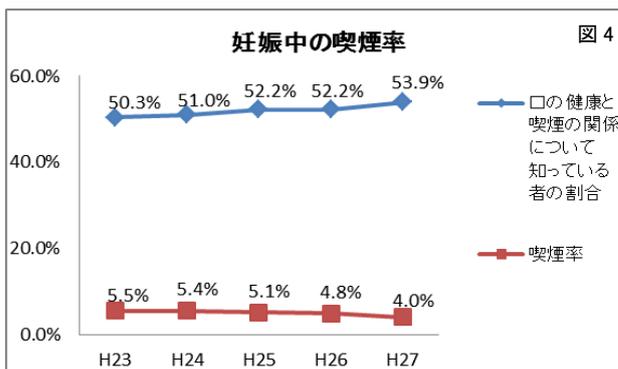
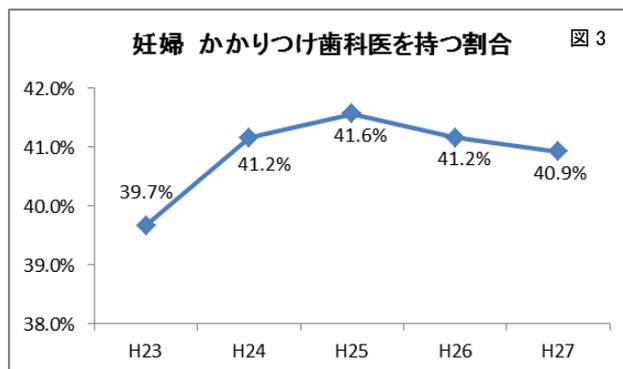
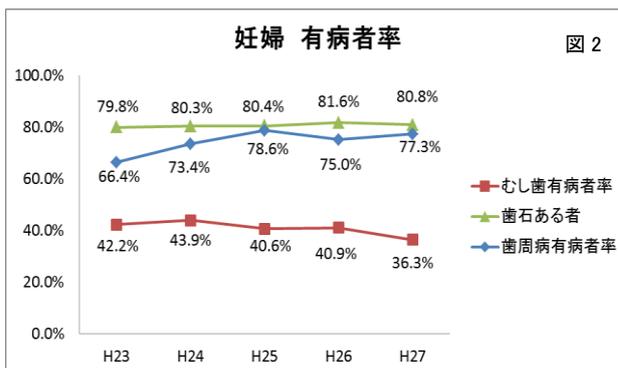
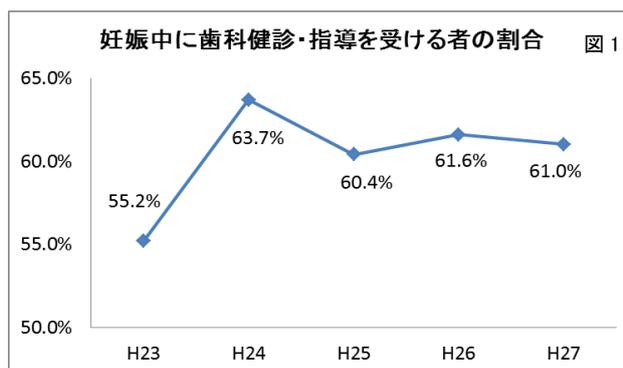
【目標】 口腔の健康を通して、健やかな妊娠生活を支援します

【指標】

胎児期及び妊娠期	No.	指標項目	H23	H27	目標値 (H34)
	1	口の健康と喫煙の関係について知っている者の増加	50.3%	53.9%	75.0%
2	妊娠中の喫煙をなくす	5.5%	4.0%	0.0%	
3	妊娠中に歯科健診・指導を受ける者の増加	55.2%	61.0%	75.0%	

◆現状

- ・妊娠中に歯科健診を受診する者は、約 6 割程度である。(図 1)
- ・経年的に4割程度の妊婦が未処置のむし歯を保有しているが平成 27 年度は減少した。(図 2)
また、歯周病を有する者は 77.3%であり、昨年度より増加した。歯石がある者は 80.8%であり、歯科治療が必要な者は、経年的に 8 割を越える状況である。(図 2)
- ・かかりつけ歯科医をもつ人の割合は約4割程度である。(図 3)
- ・妊娠中の喫煙率は減少傾向であり、指標 1 の「口の健康と喫煙の関係について知っている者」は、微増傾向である。(図 4)



◆課題

- ・親子健康手帳発行時に区役所で歯科健診を受診しない妊婦に対して、歯科医院で受診できる無料受診券を発行しているが、約 4 割の妊婦は歯科健診を受診していないため、歯科健診の受診率向上に向けた対策が必要である。
- ・早産や低体重児出生予防を含めた歯周病予防に関する啓発が必要である。
- ・生まれてくる子どものむし歯予防のためにも定期的な口腔管理の必要性を啓発する必要がある。
- ・口の健康と喫煙の関係について情報提供の充実を図る必要がある。

◆対策

- ・医師会の協力のもと、産科医療機関と連携し、妊婦歯科健診受診に向けた啓発を強化する。
- ・むし歯や歯周病予防に関する啓発ポスター等を活用し、口腔保健意識の向上に向けた啓発に努める。
- ・妊婦歯科健診や歯科健康教室の際に、口の健康と喫煙の関係が理解できるよう歯科保健指導の充実を図る。

乳幼児期

【目標】 乳幼児の歯と口腔の健やかな発達と楽しい育児を支援します

【指標】

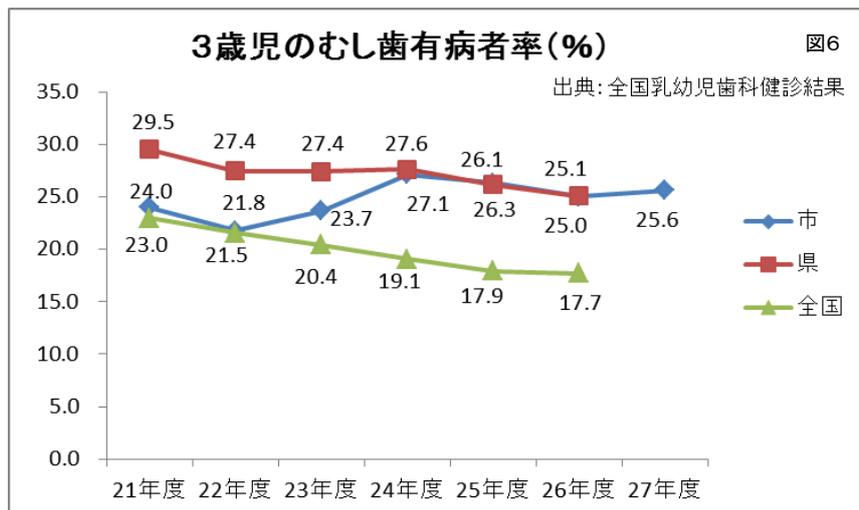
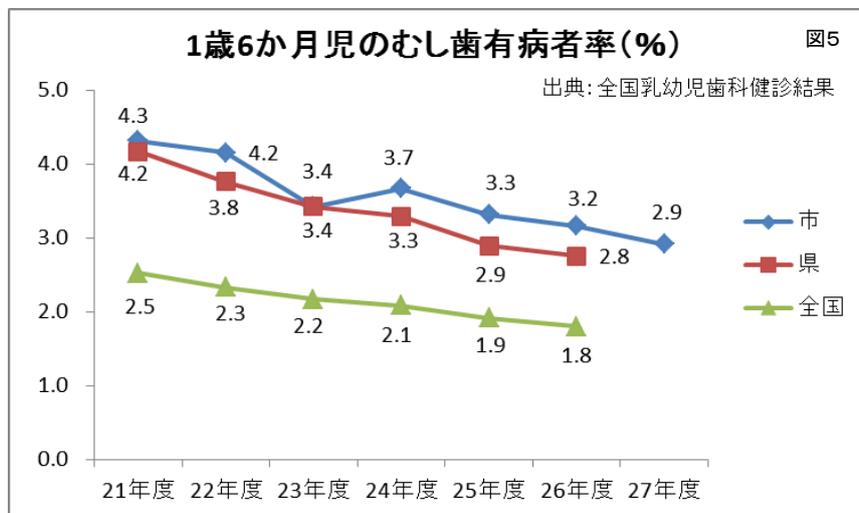
乳幼児期	No.	指標項目	H23	H27	目標値 (H34)
	4	1歳6か月児でのむし歯のない者の増加	96.6%	97.1%	100.0%
5	3歳児でのむし歯のない者の増加	76.3%	74.4%	90.0%	
6	3歳児での不正咬合等が認められる者の減少	23.5%	27.0%	10.0%	
7	3歳までに2回以上フッ化物塗布を受けたことがある者の増加	40.9%	44.6%	70.0%	
8	フッ化物洗口を実施する認可保育園・幼稚園の増加	46.2%	47.2%	60.0%	

◆現状

・年々子どものむし歯は減少傾向ではあるが、平成 26 年度の 1 歳 6 か月児むし歯有病者率は 3.2%であり、経年的に県・国よりもむし歯が多い状況であった。(図 5)

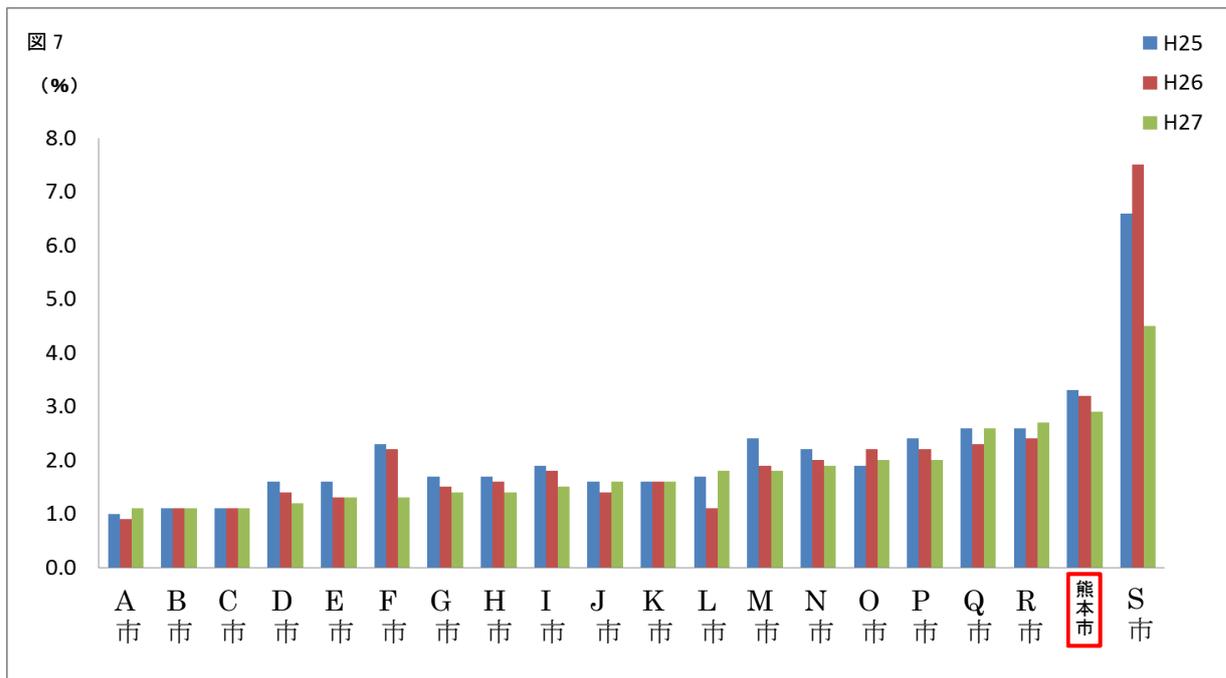
・平成 27 年度の 3 歳児のむし歯有病者率は 25.6%であり、平成 26 年度に比べ、0.6%増加した。

(図 6)



■ 1歳6か月児のむし歯有病者率（政令市比較）

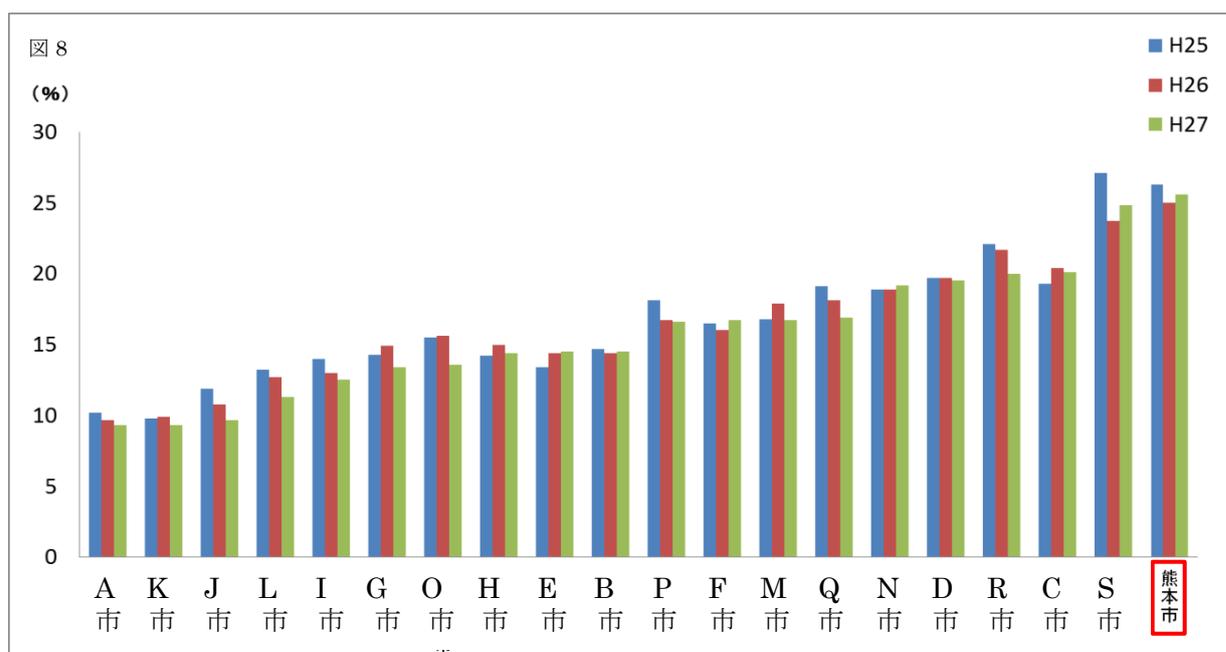
・平成 27 年度においても、政令市の中で 2 番目にむし歯が多い結果であった。(図 7)



出典: 全国乳幼児歯科健診結果

■ 3歳児のむし歯有病者率（政令市比較）

・平成 27 年度においても、政令市の中で 1 番むし歯が多い結果であった。(図 8)

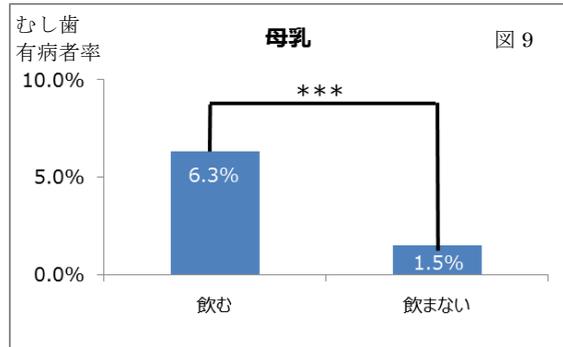


出典: 全国乳幼児歯科健診結果

1歳6か月児歯科健診の結果より

○むし歯がある1歳6か月児の特徴 (平成27年度の1才6か月児歯科健診結果より)

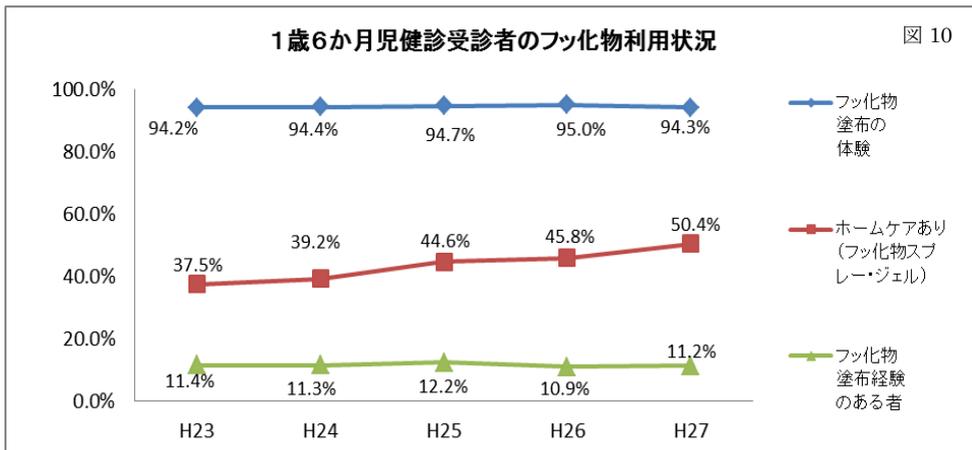
- 卒乳していない



p < 0.001 ***

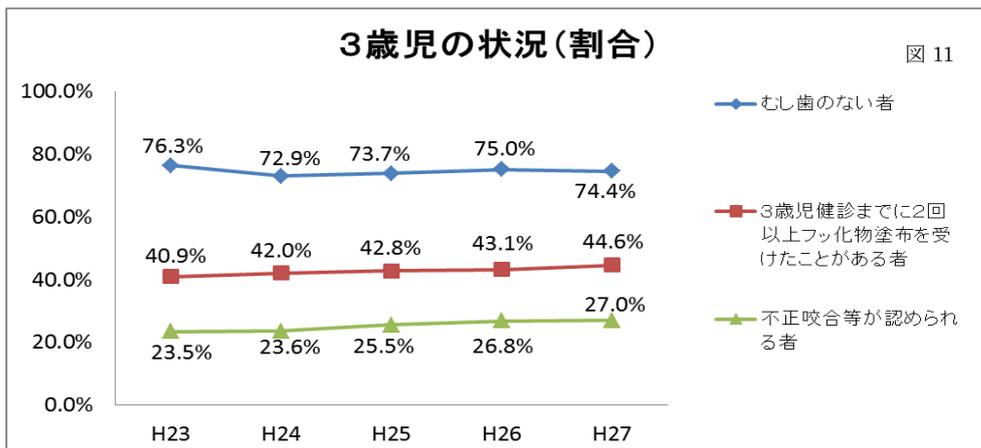
○1歳6か月児のフッ化物利用状況

- ・1歳6か月児健診までにフッ化物塗布を経験した者は、約1割と少ないが、1歳6か月健診時にフッ化物塗布の体験を希望する者は、毎年9割以上である。(図10)
- ・フッ化物配合歯磨き剤使用者は年々増加し、半数以上の1歳6か月児がフッ化物を利用している。(図10)



○3歳児における指標項目の達成状況

- ・むし歯のない者は基準値よりも減少し、不正咬合等が認められる者は基準値よりも増加しており、目標値に向けて改善できていない。(図11)
- ・3歳児健診までに2回以上フッ化物塗布を受けた事がある者は微増傾向である。(図11)
- ・不正咬合がある者は年々増加している。(図11)

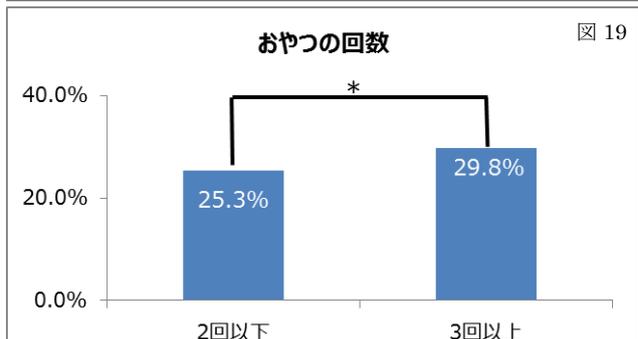
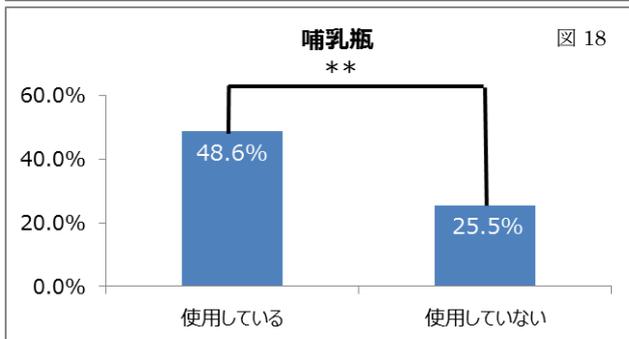
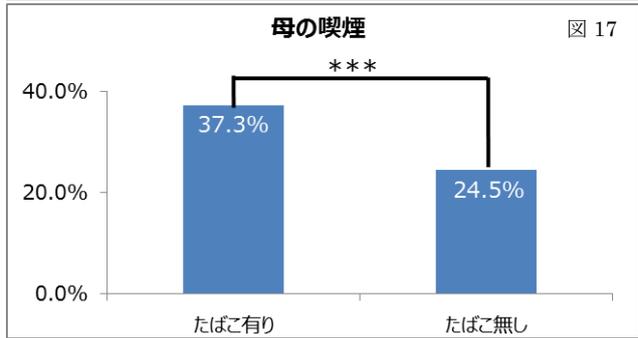
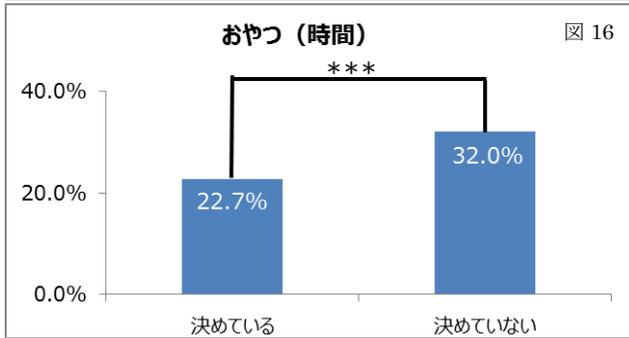
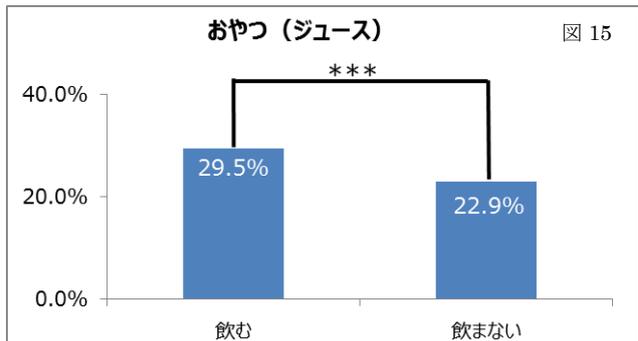
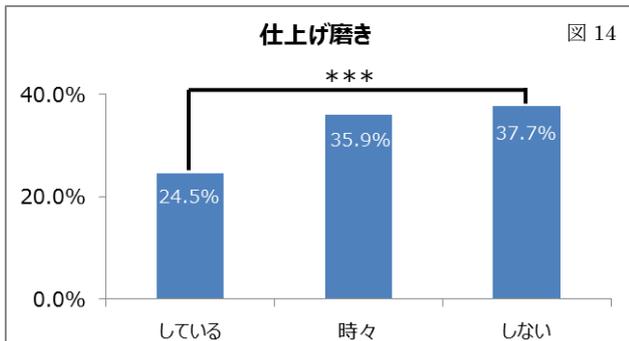
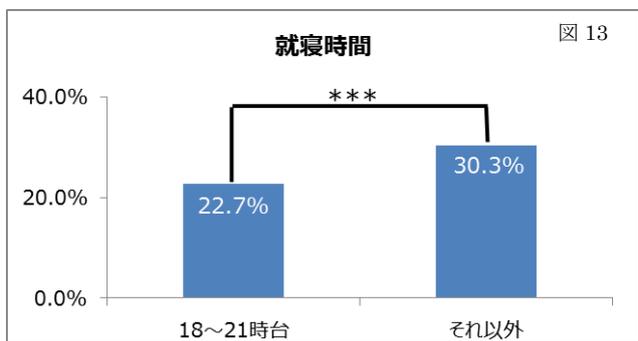
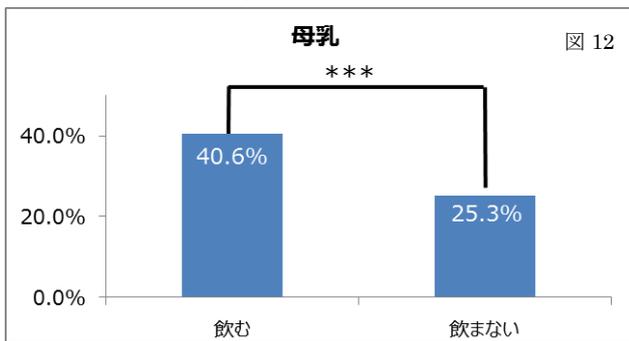


3 歳児歯科健診の結果より

○むし歯がある3歳児の特徴 (平成 27 年度の 3 歳児歯科健診結果より)

- 卒乳していない
- 就寝時間が 22 時以降
- 保護者による仕上げ磨きができてない
- イオン飲料やジュース等、甘味飲料を飲む
- 間食の時間を決めていない
- 母親が喫煙している
- 哺乳瓶を使用している
- 間食回数が 3 回以上

※むし歯有病者率 (%)



p < 0.05 *

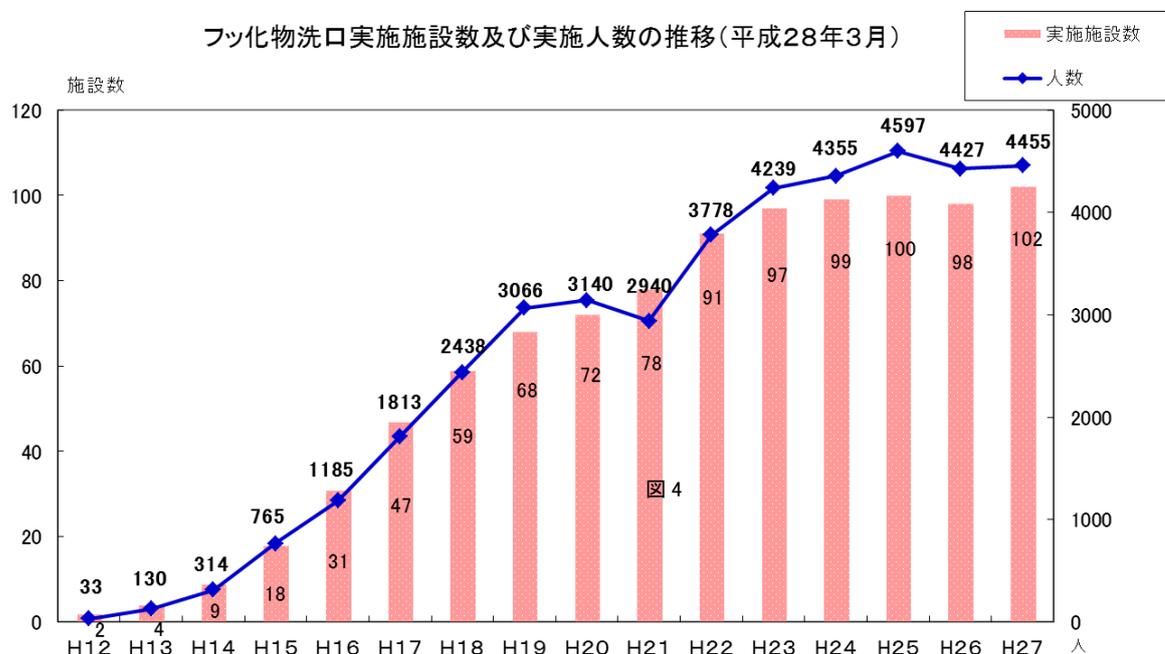
p < 0.01 **

p < 0.001 ***

○保育園・幼稚園におけるフッ化物洗口の実施状況

・フッ化物洗口を実施する施設は平成 27 年度 102 施設に増加したが、市における実施率は 47.2%であり、半数に満たない状況である。(図 20)

図 20



◆課題

- ・1歳6か月児健診より早い段階からのむし歯予防対策が必要である。
- ・むし歯の要因となっている生活習慣について、健診や相談等のあらゆる機会を捉え、保護者や子どもをとりまく関係者に情報提供していく必要がある。
- ・むし歯が急増する1歳6か月から3歳までの間に、ハイリスク対象者に個別アプローチが必要である。
- ・3歳までに不正咬合を予防するための情報提供を充実する必要がある。
- ・仕事を持つ母親が増加している中、保育園や幼稚園へ通園する保護者への情報提供が必要である。
- ・保育園・幼稚園に対してフッ化物洗口実施園拡大に向けた説明会などを実施しているが、年に数園しか増えておらず、更なる推進に向けた取組みの強化が必要である。

◆対策

- ・「無料歯科健診」付き予防啓発カードを市役所や区役所、小児科、薬局などで配布し、定期的な口腔管理の必要性について啓発する。
- ・むし歯や歯周病予防に関する啓発ポスター等を活用し、口腔保健意識の向上に向けた啓発に努める。
- ・あらゆる機会を捉え、むし歯予防に関する情報提供の充実を図る。
- ・保育園や幼稚園において歯科健康教育や歯科保健指導の充実を図る。
- ・各関係機関と連携を強化し、地域住民への歯と口の健康づくりに関する情報提供の充実に努める。